

経済界トップが建てた商家



江戸後期に石鳥谷の井筒屋権右衛門より分家した三代目村井弥兵衛が、明治44年（1911）に、旧盛岡銀行の建設関係者（東京）に依頼して建てた黒しっくい塗り土蔵造りの商家。弥兵衛は、旧盛岡銀行頭取等を務めるなど、この時代の経済界のトップであった。東京などでは明治中期に、煉瓦造りになる防火造りとして土蔵造り店舗が多く建てられた。川越の町並みが有名。

店は2度火災を受け、修理の際に玄関部が増築されたため屋内に元の玄関部が残っている。現在は国内でも老舗の自然食品の店として有名な「盛岡正食普及会」の店舗として使われている。裏の土蔵は江戸時代後期の建築とされ、現代美術を中心とした画廊・喫茶として使われている。

（もりけん本スーパー ver. 2より）

